

絵本について

家庭科(文)班:生田 渚 大西 香織

1. はじめに

誰もが一度は読んだことのある絵本は、成長するうえで私たちに何か影響を与えているのか、また、人気の絵本には何か共通点が隠されているのかと疑問に思い、研究を始めた。

2. 研究課程

(1) 高津高校2年生341人に以下の内容についてアンケートを実施。

- ①印象に残っている絵本の名前（複数回答可）
- ②国語が好きか嫌いか
- ③家にある本の数

(2) アンケートの結果を文系と理系に分けてグラフ化し、関連性を調べる。

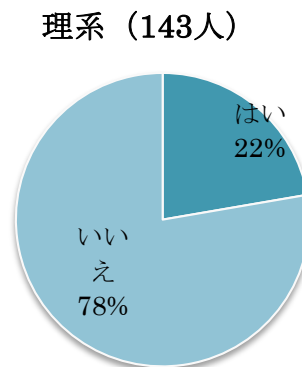
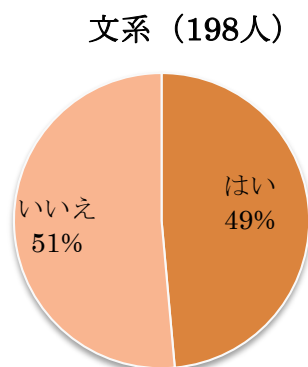
(3) 印象に残った絵本の中でランキングを作り、1位の人気の理由を調べる。

3. 結果

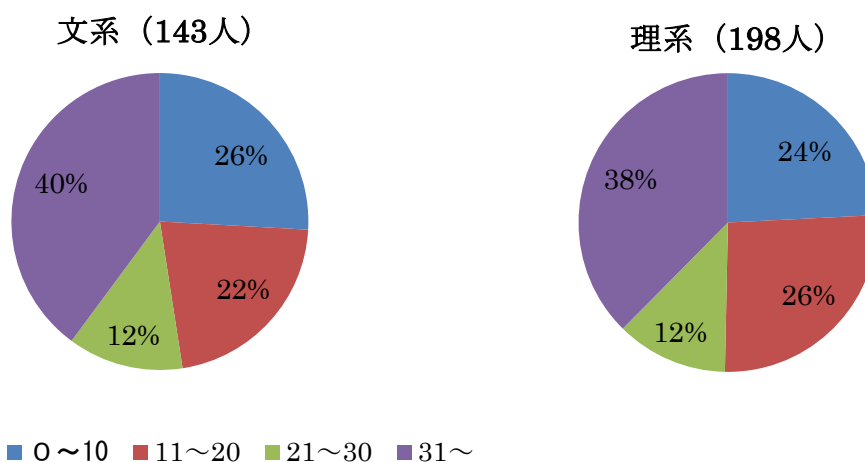
(1) ①「印象に残っている絵本の名前」

- 1位 ぐりとぐら（文系32票、理系64票）
- 2位 はらぺこあおむし（30票、48票）
- 3位 100万回生きたねこ（9票、6票）
- 4位 バムとケロシリーズ（7票、6票）
おしいれのぼうけん（4票、9票）
- 5位 もったいないばあさん（3票、3票）

②「国語が好き」という質問には、文系49%と理系22%で大きな差が出た。



③「家にある本の数」は文系と理系に大した違いは見られなかった。



(2)②、③の結果より、国語の好き嫌いとは家にある本の数には関係性が見られなかった。

4. 「ぐりとぐら」に含まれている視覚的効果について

(1) 色彩

主人公の「ぐり」と「ぐら」はそれぞれ青、赤色の服を着ている。赤色は最も目立つ色であり注目しやすい色のため、子供に絵本の読み聞かせに集中させる効果がある。

青色は赤色の次に目立つ色であり、興奮を抑える効果がある。この対照的な2色を主人公の洋服に用いることで子供の興味を引き付けることができる。

(2) 食べ物について

「ぐりとぐら」に登場する食べ物に大きな黄色い「かすてら」がある。

かすてらを作る工程を細かく描写することによって、手に取って食べたくなるような子ども心をくすぐるものとなっている。また、かすてらの焼き上がりを待っている間にぐりとぐらが歌う歌も子どもに興味を引き付ける要因の一つだ。

5. 考察

今回の研究で、国語の好き嫌いとは家にある本の数に相関関係は見られなかったため、幼少期に親が与える本の数は今の私たちの国語の好き嫌いには関わりがなかった。また、幼少期に絵本を通して、無意識のうちに視覚的影響が及ぼされていることが分かった。

6. 参考文献

「絵本のひみつ」著・余郷裕次